

2021 年度 SDGs 未来都市等提案書(提案様式1)

令和3年3月1日

雲仙市長 金澤 秀三郎

提案全体のタイトル	素材を磨き、活かし、つながる“ほっとする by 雲仙”
提案者	長崎県雲仙市
担当者・連絡先	

# 1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

## 1.1 将来ビジョン

### (1) 地域の実態

#### (地域特性)

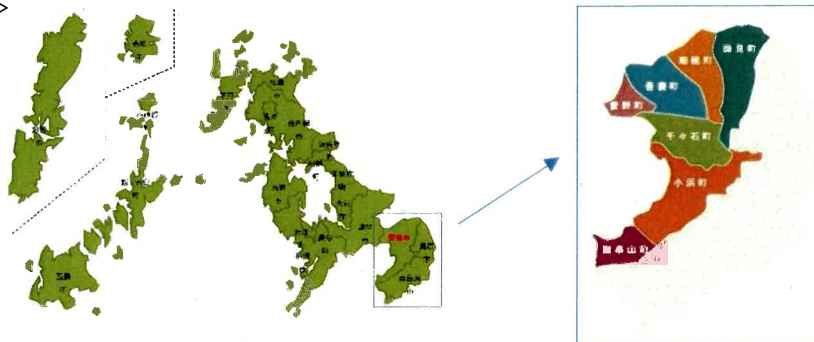
##### 【歴史的経緯・地理的条件】

長崎県雲仙市は、平成 17 年 10 月 11 日に国見町、瑞穂町、吾妻町、愛野町、千々石町、小浜町、南串山町の 7 町が合併した市であり、総人口(令和 3 年 1 月末現在)は 42,696 人、総面積(令和 2 年 10 月 1 日現在)は 214.31 km<sup>2</sup>となっており、長崎県全体(4130.98 km<sup>2</sup>)の約 5.2%を占めている。また、気候については、温暖多雨の恵まれた条件にあり、県下有数の農業地帯である。

また、本市は、長崎県の西部に位置し、島原半島の陸の玄関口として、長崎県の南東部、島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置しており、北岸は有明海に、西岸は橘湾に面している。地勢は、雲仙山系の険しい山地とそれに連なる丘陵地及び海岸沿いに広がる平野部からなり、東西 17 km、南北 24 kmとなっている。

本市を取り巻く環境は、橘湾や有明海を望む美しい海岸線や、普賢岳、雲仙地獄等の雄大な自然環境を有しており、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定され、また、雲仙普賢岳を中心に「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されている。

<本市位置図>



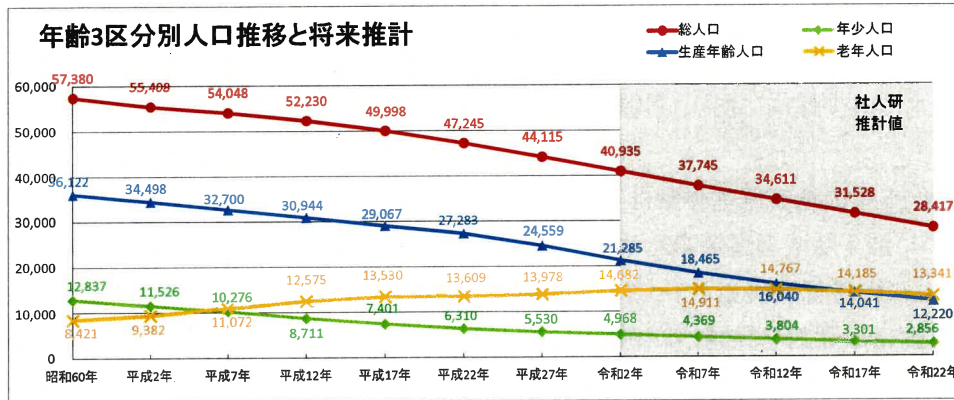
##### 【人口動態】

本市の人口は、合併時の平成 17 年(2005 年)は 49,998 人であったが、平成 27 年(2015 年)の国勢調査では 44,115 人となっている。自然動態、社会動態ともにマイナスの状態が続いており、年間平均 600 人弱の人口が減少している。今後も減少は続き、令和 12 年(2030 年)には 28,000 人程度になると予測されている。

平成 27 年(2015 年)における 65 歳以上の老年人口は本市人口の約 31.7%を占め、全国平均を 5.1 ポイント上回っており、令和 12 年(2030 年)には約 42.7%まで上昇すると予

測されている。

また、生産年齢人口の減少が著しく、平成 27 年(2015 年)から令和 12 年(2030 年)までの 15 年間で約 9,700 人の減少が見込まれ、今後、更に少子・高齢化が進んでいくことが見込まれている。



出典: 国勢調査(昭和 60 年～平成 27 年)、国立社会保障・人口問題研究所(令和 2 年～令和 22 年)

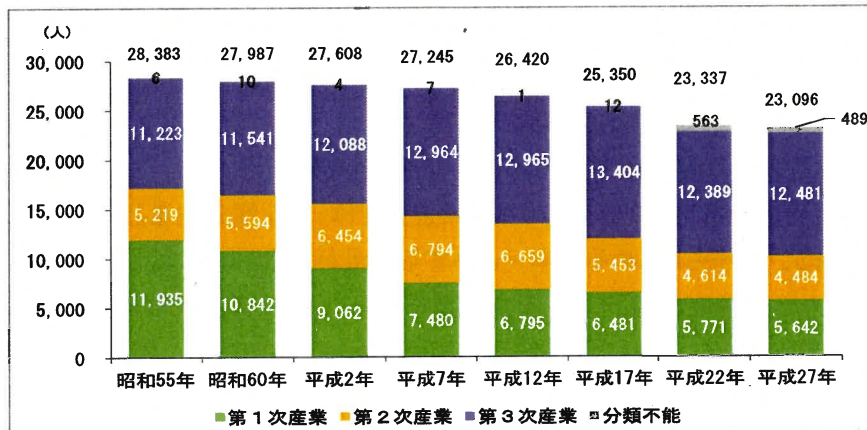
### 【産業構造】

本市の就業者数は平成 27 年国勢調査で 23,096 人と 5 年前(平成 22 年)に比べ約 1% 減少し、本市の人口と同様に、就業者数も減少が続いている。

産業別就業者数の割合をみると、第 1 次産業 24.4%(5,642 人(5 年前比▲22.2%))、第 2 次産業 19.4%(4,484 人(5 年前比▲2.8%))、第 3 次産業 54.0%(12,481 人(5 年前比+0.7%))となっている。第 3 次産業が全体の半数以上を占めており、第 3 次産業のみ前回調査時と比較し、全体に占める割合が微増している。

しかしながら、第 1 次産業の割合が県平均(7.4%)の約 3 倍と高く、県下有数の農業地帯としての産業構造を有している。

#### 総就業者数の推移



出典: 国勢調査

## <本市の主な産業の状況>

### ①農業

平成 27 年度の農業経営体数は 2,615 経営体で長崎県全体の 11.9%を占め、販売のあった経営体の割合は複合農家が約 4割と最も多く、次いで稲作、雑穀・いも類・豆類、施設野菜の順となっており、農業産出額は長崎県の 16.3%を占める食の宝庫である。

本市の基幹産業として更なる振興が求められる産業であるが、農家数・農業就業人口はともに減少傾向にあり、高齢化も進行している。（出典：2015 農林業センサス）

### ②漁業

平成 25 年の漁業経営体数は 192 経営体と 5 年間で 17%減少し、漁獲量は、経営体の減少に加え海域の環境変化や水産資源の減少等により、平成 25 年は 2,444tと昭和 63 年以来の最低漁獲量となった。平成 29 年は 5,263tまで回復しているが、就業者の減少と高齢化は深刻な問題となっている。（出典：長崎県統計年鑑）

### ③観光

令和元年の観光客数は 275 万人と、平成 16 年以降 400 万人を下回り、また、令和元年の観光消費額は 183 億円と、平成 12 年からの 20 年間で約 50%の減少している。

本市は、全国有数の泉質と湯量を誇る雲仙温泉、小浜温泉の 2 つの温泉地を有しているが、宿泊客数は減少傾向にあり、令和元年では観光客の約 66%が日帰り客となっている。（出典：長崎県観光統計）

## 【地域資源】

### ①肥沃な大地と宝の海から恵みをうけた「山の幸・海の幸」

本市の恵まれた自然（地形、土壌、気候）を活かし、「水稻」や「ばれいしょ」、「だいこん」、「たまねぎ」、「ブロッコリー」、「レタス」等の露地栽培を中心に、「いちご」や「花き」などの施設栽培、「肉用牛」、「酪農」、「養豚」などの畜産業、特用林産物である「生しいたけ」、「カタクチイワシ」や「養殖ハマチ（ブリ）」、「養殖牡蠣」などの水産業が盛んである。

また、近年、栽培した野菜から直接種を採り、その種から野菜を栽培する「種採り農業」が県内外から注目されており、世界的に有名な料理人が移住するなど本市における新たな地域資源の一つとなっている。

### ②泉質の異なる 2 つの温泉と、雄大な自然を感じられる観光地

本市の観光を代表する 2 温泉のうち小浜温泉では、105 度の泉温と日量 15,000tの湧出量を活用し、ペットも楽しめる日本一と称する足湯がある。また、雲仙温泉地区は、古くから外国人の避暑地と親しまれ、国立公園第 1 号である「雲仙天草国立公園」の認定に加え、本市と島原市、南島原市からなる島原半島は、国内で第 1 号である「世界ジオパーク」に認定されている。他にも国の重要伝統的建造物群保存地区に認定されている国見町神代小路や、キリシタン殉教の舞台となった雲仙地獄、日本棚田百選に選定されている石積みの「千々石棚田」など、市内には様々な観光地が存在している。

**(今後取り組む課題)**

**【他の自治体と比較して優位な側面や劣った点】**

**①優位な側面**

- ・本市の基幹産業は第1次産業であり、年間を通して多種多様な食材が生産されている。また、農業所得を確保するため、高性能機械の導入を図り、大規模経営を行う農業者が増えているほか、農地の基盤整備を契機として経営が安定したことで、Uターンによる農業後継者が増え、結果として児童数の増加へ繋がった地域も存在するなど、市内の農家数・農業就業人口が減少傾向にあるなかでも、将来に向けた明るい兆しが見えている。
- ・小浜温泉の約7割が未利用のまま海へ排水されていたことから、市では民間企業と連携を行い、平成25年から未利用温泉水を活用した「小浜バイナリー発電所」による発電を開始し、平成27年9月から本格稼働を行っている。他にも、本市は、森林バイオマス、畜糞、地熱等の多様な資源を有しており、現在、大学と共同で地熱発電に係る地下資源の調査を行うなど、再生可能エネルギー開発の取り組みが進んでいる。
- ・本市には、2つの温泉や様々な観光スポットが存在しており、県内でも有数の観光地となっている。また、近年のコロナ禍を受け、仕事と休暇を組み合わせた「ワーケーション」が全国で注目されており、現在、廃校舎を活用したワーケーション施設整備など、既存の地域資源を活用した関係人口の創出に向けて取り組んでいる。

**②劣った点**

- ・本市においては、平成27年度に「雲仙市総合戦略」を策定し、様々な移住・定住支援策に取り組んでいるが、人口減少に歯止めがかかっていない状況である。特に、10～20代の若い世代においては、毎年、転出超過の状態となっている。若い世代の転出は、市内に大学等の高等教育機関がないことや、希望する職種がないことが要因であると考えられる。
- ・雲仙市を訪れる方から「ポテンシャルは高い」とよく言われ、また、市もその価値を理解しているものの、点と点を結び、線もしくは面へと発展させるなど、それぞれの価値を最大限に引き出す、効果的な連携や仕組みづくりが確立していない。

**【今後取り組む課題】**

本市は、昨年から流行している新型コロナウイルス感染症により、市内における飲食店の利用者や観光客の減少、農作物の消費低迷など、様々な影響を受けている。

今後、人口減少や少子・高齢化が進行していくなかで、感染症という見えない相手と共存しながら、本市が持続的に発展していくためには、域内のヒト・モノ・マチを好循環させていくことが必要不可欠である。

そのため、SDGsの取り組みにより、ヒト・モノ・マチを好循環させる仕組みを構築し、市民一人ひとりが、循環による相乗効果を実感できるような環境を実現する必要がある。

## (2) 2030年のあるべき姿

### 【2030年のあるべき姿】

雲仙市では、市の将来像を「“つながり”で創る 賑いと豊かさを実感できるまち」と掲げ、その取り組みを推進するため、市民の心と心をつなぐ「ほっとする by(ばい)雲仙」を合言葉として、市民との連携を深化させている。

この活動とSDGsの取り組みにより、「自然」「人」「団体」による視野の広い世界観(目標)の下、本市に存在する様々な地域資源を磨き活用し、そして循環させ、基幹産業である農業、観光の活性化と助け合う社会の構築により、雲仙市に移住する方が増え、かつ雲仙市に住み続ける市民により、地域が賑わっている。

また、地域の賑いにより観光客が増え、観光客を含めた志民(雲仙市と関わりを持つ人)活動が定着し、さらにヒト・モノ・マチの好循環社会の構築が図られ、市民、本市に関わる全ての人々が3つの「ほっと」により雲仙市に誇りを持っている。

### 雲仙市の将来像： “つながり” で創る 賑いと豊かさを実感できるまち

“つながり”で創る

新しい雲仙市総合計画のまちづくりのキーワードは、“つながり”です。次の3つの“つながり”を育みながらまちづくりを進めます。

#### ①自然との“つながり”

国立公園やジオパークに認定された豊かな自然環境を、市民共有のかけがえない財産として守り、育てながら、自然環境と「人」、「地域」、「産業」との“つながり”を深め、それにより持続可能な活力を生み出すまちづくりを進めます。

#### ②人との“つながり”

人口減少や高齢化などの社会環境の変化に柔軟に対応しつつ、誰もが安心できる地域社会を構築するために、人と人との“つながり”(=「絆」)を育み、生かすまちづくりを進めます。

#### ③市民や地域、近隣との“つながり”

まちづくり実現の推進力として、近隣自治体と連携しながら、市民や地域、民間企業等が持つ力を最大限に発揮できる環境をつくり、その力を“つなぎ合わせ”、相乗効果を高めていきます。

賑わいと豊かさを実感する

本市が持続的な発展を遂げていくためには、産業の活性化や交流人口の拡大などによる経済の活性化が不可欠です。これにより雇用を生み出し、人口流出に歯止めをかけることで地域全体に活力がみなぎるなど“賑わい”の好循環を生み出します。

また、地域のコミュニティを育みながら、結婚から出産、子育ての支援はもとより、介護や福祉のまちづくりを進化させることで、市民一人ひとりが「雲仙市に住んで良かった」と思えるような“豊かさ”を実感できるまちづくりを目指します。

市民の心と心をつなぐ  
まちづくりの合言葉



◎市民の「ほっと」……→安心の暮らして“ほっと”

◎来訪者の「ほっと」……→温泉や人の温かさにふれて“ほっと”

◎まちづくり活動の「ほっと」……→市民主体のまちづくりが熱く展開(HOT)

## 1 市民が「ほっと」するまち

○山や海などの自然環境の中で、子どもたちが遊ぶことができる環境や、プログラミング技術などを専門家から学ぶことができる環境が市内に整備されており、自然を守り継いでいく大切さや、想像力、問題解決力など、子どもたちが将来において必要な素養を身に着ける環境が整えられている。また、ICTを活用した教育環境の充実により、教育格差の是正が図られ、安心した子育て環境が整備されている。

○ITシステムを活用した新地域交通の確立により、子どもからお年寄りまで、必要な時に外出できる環境が整備されている。また、農業と福祉が連携した「農福連携」や、食品ロスの改善と貧困世帯の支援を行うフードバンクの構築、高齢者(独居老人)の見守り体制の強化など、誰一人取り残されない、安心して暮らせるまちが実現している。

## 2 来訪者が「ほっと」するまち

○本市の基幹産業である農業において、AIやICT等の先端技術の活用が進められており、後継者不足の解消及び農業生産額の向上が図られ、本市における農業の活性化に繋がっている。また、本市における伝統農法の種採り農業について、幅広く発信がなされることで、認知度が高まっているとともに、種採り農業に興味を持つ市外からの来訪者が、農業体験や種採り野菜を購入することで、自然の癒しや安心した食材を手に入れることができる環境が整っている。

○地域が主体となった観光まちづくりが積極的に進められており、他の地域とは差別化された地域資源を活かした豊富な観光プログラムや上質なおもてなしなど、来訪者が満足するような環境が整備されている。また、市内にワーケーション関連施設が整備されており、これまでの観光客とは異なる新たなタイプの個人や家族で訪れる人が増えることで、地域住民との交流機会が増加するなど、多くの関係人口が創出されており、賑わいが生まれている。

## 3 まちづくり活動が「ほっと(熱く展開(HOT))」しているまち




○地熱発電開発に関する調査研究や、湿潤系、木質バイオマスなどのカーボンニュートラル(脱炭素社会)の実現に寄与する再生可能エネルギーの実用化に向けた取り組みが進められ、市内で生み出されたエネルギーが、市民の暮らしや経済(旅館・ホテル、飲食店などの事業所等)に活用されている。また、行政と市民、市内事業者が一体となって、ごみの減量化や、食品ロスの軽減に向けた活動を行っており、市全体で環境に優しいまちづくりに取り組んでいる。

○ICTを活用した防災情報の発信や、自主防災組織の環境整備など、先進技術を活用しながら、市民と一緒に災害に強いまちづくりに取り組んでいる。また、市民も含めた民間のアイデアにより、市内公共施設等が有効的に活用され、市民主体によるまちづくりが積極的に行われ、地域が賑わっている。

**(3)2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット**



※以降のページで記載している KPI については、現段階の既存計画で 2023 年及び 2030 年までの目標設定がないため、暫定値を記載している。そのため、KPI については、今後策定する本市の計画(総合計画等)に合わせ、見直しを行う。

**(経済)**


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 <b>3, 8</b>	指標: 健康寿命(男性)	
	現在(2018年3月): 78.75歳	2030年: 78.75歳(現状維持)
	指標: 健康寿命(女性)	
	現在(2018年3月): 84.38歳	2030年: 84.38歳(現状維持)
 <b>8, 9</b>	指標: 宿泊施設売上	
	現在(2020年3月): 39.0億円/年	2030年: 59.5億円
 <b>9, 1</b>	指標: 地域高規格道路「島原道路」整備率(雲仙市内)	
	現在(2021年3月): 17.6%	2030年: 17.6%以上

本市が持つ自然を活用した健康増進策について推進を図るとともに、本市の基幹産業である農業と観光業の活性化を図る。また、農作物を始めとした商品の流通や、観光客の増加にはインフラ整備も重要な要素となることから、上記のターゲットを選定した。

**(社会)**




ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 <b>1, 3</b>	指標: 就労支援による就労開始者数	
	現在(2020年3月): 7人/年	2030年: 10人/年
 <b>4, 4</b> <b>4, 7</b>	指標: 「STEAM雲仙」で学習する子どもの数	
	現在(2021年3月): 0人/年	2030年: 10人/年



	11, 1	指標: 雲仙市に住み続けたい市民の割合	
		現在(2021年3月): 77.9%	2030年: 80%



誰もが安心して暮らしを送ることができるよう就労支援を推し進め、全ての子どもに対しても学びの場、遊びの場等を提供することにより、子どもの可能性を最大限引き出すことのできる環境整備を図るため、上記のターゲットを選定した。

(環境)


ゴール、 ターゲット番号	KPI		
	7, 1	指標: 再生可能エネルギー施設	
		現在(2021年3月): 1施設	2030年: 2施設
	12, 5	指標: 1人1日あたりのごみ排出量	
		現在(2020年3月): 983g/人・日	2030年: 850g/人・日
	17, 17	指標: 自主防災組織地区数	
		現在(2021年3月): 92地区	2030年: 242地区(100%)

持続可能で環境負荷の少ないまちづくりを進めるため、資源循環型社会への転換を図り、また、災害に強いまちの実現を目指し、自主防災組織の推進を図るため、上記のターゲットを選定した。

## 1.2 自治体 SDGs の推進に資する取組

(1)自治体 SDGs の推進に資する取組			
① 雲仙 SDGs プラットフォームの構築			
ゴール、 ターゲット番号	KPI		
 16, 6 16, 7 16, b	指標:プラットフォームに参画する団体数		
	現在(2021年3月):	2023年:	
	0団体	10団体	
<p>・雲仙 SDGs プラットフォームの構築</p> <p>本市における SDGs を推進するための場として、「雲仙 SDGs プラットフォーム」を構築する。本プラットフォームに、大学や企業、農業者や漁業者、市民など幅広いステークホルダーで構成し、各分野との情報共有や連携による取り組みの推進を図る。</p> <p>・アクションプランの作成・実施</p> <p>雲仙 SDGs プラットフォームのなかで、様々な分野のメンバーから意見を聴取しながら、本市における SDGs の達成に向けた取り組みを体系的に整理し、「アクションプラン」として策定を行う。アクションプラン策定後は、関係団体と連携しながら取り組みを展開していく。</p>			
② 機運の醸成と人材育成			
ゴール、 ターゲット番号	KPI		
 17, 17	指標:SDGsに関する講習会の開催		
	現在(2021年3月):	2023年:	
	0回/年	20回/年	
<p>・SDGs 啓発映像の制作・発信</p> <p>SDGs についての普及・啓発を図るため、SDGs の概要や本市における取り組みを紹介するための映像を制作し、市ホームページやSNSを通して市内外へ幅広く発信を行う。</p> <p>・雲仙 SDGs マイスターの育成</p> <p>市民が主体となった SDGs の推進を目的として、SDGs に関する講習会を開催し、「雲仙 SDGs マイスター」を育成する。この取り組みを通して、受講者が積極的に SDGs に取り組むとともに、地域の SDGs を牽引する人物となることで、市全体の SDGs に対する機運の向上に繋げる。</p>			

### ③ ICTとAIによる新たな日常の創出

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 2	指標:「チョイソコうぜん」の運行エリア数	
	現在(2021年3月): 4地区	2023年: 7地区(市内全域)

・乗り合い送迎サービス「チョイソコうぜん」の市内全域稼働【詳細は後述】

令和2年10月から、雲仙市新地域交通実証実験協議会(事務局:雲仙市)が主体となって実証実験を行っている、ITを活用した乗り合い送迎サービス「チョイソコうぜん」について、運行エリアを市内一部から市内全域へ拡大し、本格運行を行う。

この取り組みを通して、市民、特に高齢者や障害者の外出支援及び乗り合いによる二酸化炭素の低減に繋げ、市民の日常生活の支援と、低炭素で環境に優しいまちづくりを進める。

・日常生活の利便性を高めるアプリの開発【詳細は後述】

市民の生活の利便性を向上するため、企業と連携し、「高齢者見守りアプリ」、「食品管理(食品ロスからフードバンクへ繋げる仕組み)アプリ」、「避難所紹介アプリ」、「健康測定・管理アプリ」、「教育支援アプリ」、「地域通貨(ポイント)“湯せん Pay”アプリ」の実証実験を行い、実用化に向けた取り組みを進める。

※「湯せん Pay」…本市の名菓である「湯せんぺい」と、キャッシュレス決済を意味する「Pay」を掛け合わせたネーミング。

### ④ 遊びと学び、育つ環境の整備

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 2 4, 4 4, 7	指標:自然を舞台とした遊び場の整備	
	現在(2021年3月): 0箇所	2023年: 1箇所
	指標:「STEAM雲仙」の創設	
	現在(2021年3月): 0箇所	2023年: 1箇所

・自然を舞台とした子どもの遊び場の整備【詳細は後述】




本市が持つ山や海などの自然環境の中で、子どもたちが安心して遊ぶことができる環境を整備する。子どもたちが、この遊び場で遊ぶことによって、楽しく遊びながら、自然を

守ることや生き物の大切さ、多様性について学び、将来、意識せずとも SDGs に取り組むような人材となることを目指す。

・次世代寺子屋「STEAM雲仙」の創設【詳細は後述】

雲仙プラットフォームに参画している大学や民間企業と連携し、子どもたちが、e-スポーツや、プログラミング体験を通して、楽しみながら将来必要な知識や技術を身に付けることができる、次世代寺子屋「STEAM雲仙」を創設する。「STEAM雲仙」では、大学教授や民間企業の社員が教え役となって、子どもたちへ専門的な分野の教育を行う。

⑤ 共生と循環のまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1, 3	指標:「うんぜんフードバンク」の設置数 現在(2021年3月): 0箇所	
 2, 1	2023年: 1箇所	
 12, 3		




・農業と福祉の連携による多様性のある社会の構築【詳細は後述】

本市の基幹産業である農業と、福祉分野の連携(農福連携)を推進することで、高齢者や障害者等の社会への参画機会を創出する。また、就業者の高齢化や後継者不足により、人手が不足している農業分野においても、高齢者や障害者を受け入れることによって、新たな働き手の確保に繋げ、互いに助け合う多様性のある社会の実現に繋げる。

・見える「食品ロス」アプリとフードバンクの連携【詳細は後述】

市内のスーパーや飲食店、旅館、ホテル、農業者等と連携し、各事業所において発生する食品ロスの状況を逐次把握し、管理できるアプリを開発する。本アプリで把握した食品ロスとなった食材を、フードバンクを通して提供する仕組みを構築し、貧困世帯や一人親世帯等への食材提供を行うとともに、食品ロスの循環による有効活用を図ることで、環境に優しいまちづくりに繋げる。

## ⑥ 資源を活かし、磨く産業づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 2, 4	指標: 農業産出額	
	現在(2019年3月): 24,470 百万円/年	2023年: 30,000 百万円/年
 8, 9	指標: 観光客延数	
	現在(2020年3月): 2,752 千人(延べ)/年	2023年: 2,936 千人(延べ)/年
 17, 17	指標: ワークーション等延べ利用者数	
	現在(2021年3月): 0 人	2023年: 500 人

### ・デジタル技術を活用した農業の推進と種採り農業の伝承【詳細は後述】

AIやICTなどのデジタル技術を農業へ取り入れることによって、農作業の労力軽減や効率化を図り、農業の生産性を向上させる。また、本市で守り継がれている種採り農業の普及を図るため、ドキュメンタリー映像を作成し、幅広く発信を行う。


### ・観光まちづくり推進体制の設立・事業実施【詳細は後述】

観光の一体的なブランドづくり、情報発信、プロモーション、効果的なマーケティング、観光戦略など地域が主体となって観光まちづくりを行う推進体制を設立し、持続可能な観光地域づくりとともに、環境に優しく、魅力的な体験プログラムを地域一体となって造成する。

### ・魅力的なワークーションの受入態勢の整備【詳細は後述】

本市におけるワークーション受入態勢整備による関係人口の増加や、人材・協力者の呼び込みを通じた観光まちづくりの活性化を図る。

## ⑦ カーボンニュートラル(脱炭素社会)のまちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12, 5	指標: ごみの再資源化率	
	現在(2020年3月): 14.2%	2023年: 18.1%

### ・地域資源を活用した再生可能エネルギーの開発【詳細は後述】

カーボンニュートラル(脱炭素社会)の実現に向けて、本市が持つ森林バイオマス、畜糞、地熱などの地域資源を活用した、再生可能エネルギーの開発・実用化に向けた取り組みを進める。

・ごみの減量化に向けた取り組み【詳細は後述】

市民や市内事業者が一体となって、食品ロスも含めた、ごみの減量化及び資源のライフサイクル推進に取り組むよう、啓発活動を行う。

## (2)情報発信

### (域内向け)

○リーフレットや動画を活用した市ホームページ、SNSによる発信

SDGs の概要や本市における SDGs の取り組みについて分かりやすく紹介するリーフレットを作成し、市民及び事業所等への配布や市内公共施設への設置を行う。また、SDGs に関する動画を作成し、市ホームページやフェイスブックに掲載する。

○市民、事業者等への出前講座の実施

本市が実施している出前講座のメニューに、SDGs をテーマとして加え、市内自治会、学校関係者、関係団体、事業者等に対して、SDGs に関する説明や本市が取り組む SDGs に関する事業についての紹介を行う。

○雲仙市総合計画等審議会を通じた地域への発信

現在、第2次雲仙市総合計画の進捗確認及び効果検証を行う組織として、市内の産官学労言等で構成する「雲仙市総合計画等審議会」において、本市の SDGs の取り組みを発信し、今後のまちづくりに SDGs の取り組みが必要であることの共通認識を図り、地域全体で取り組みを進めていく。

○SDGs に関するセミナーの実施

令和2年10月1日に、地方創生に関する包括連携協定を締結した、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社との連携により、市職員等を対象とした SDGs に関するセミナーを実施し、庁内における SDGs の必要性について共通認識を図る。

### (域外向け(国内))

○ステークホルダーと連携した取り組みの発信

雲仙プラットフォームに参画する、市内の事業所、農業団体、観光団体や市外の大学、報道機関、NPO等のステークホルダーと連携し、各団体における SDGs の取り組みについて、動画としてとりまとめ、団体内部への発信を行うとともに、各団体におけるホームページにおいて幅広く発信する。

○議会視察及び行政視察の受け入れ

県内他市町や県外市町からの議会視察や行政視察を受け入れることによって、本市の SDGs の取り組みをアピールする。

#### (海外向け)

##### ○SDGsの取り組みに関する動画(外国語版)の作成・発信

前述の本市のSDGsに関する動画について、外国語版でも作成し、ホームページやSNSにアップすることで、海外へ発信する。

##### ○世界ジオパークを通じた情報発信

国内第1号として認定を受けた「島原半島ジオパーク」における活動のなかで、ホームページや視察の受け入れの際など、あらゆる機会を通じて本市のSDGsの取り組みをPRする。

### (3)全体計画の普及展開性

#### (他の地域への普及展開性)

昨年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症による、域内経済への打撃、日常生活の変化(「新たな生活様式」の実践)については、全国の自治体で共通するものである。

また、新型コロナウイルス感染症による影響に加え、人口減少による少子・高齢化の進行、人口減少に伴う農業・漁業事業者の高齢化及び後継者不足、観光客の減少による地域経済の低迷は、多くの自治体に共通する課題であると考えられる。

本市におけるSDGsの取り組みは、これらの課題を解決するため、新型コロナウイルス感染症によって得られた教訓を生かしながら、地域におけるヒト・モノ・マチを好循環させる取り組みであり、多くの自治体においても、持続可能な社会を形成するうえで、有効性の高いものであると考えられる。

## 1.3 推進体制

### (1) 各種計画への反映

#### 1. 第3次雲仙市総合計画(後期基本計画)

2021年度に策定する雲仙市まち・ひと・しごと創成総合戦略を内包した第2次雲仙市総合計画の後期基本計画(2022年度～2026年度)において、SDGsの取り組みを反映する予定。

具体的には、基本構想に基づき、計画の中で取り組む各施策が、SDGsの17のゴールのどこに関連するかについて整理を行い、市が行う取り組みとSDGsの取り組みの関連性を明確にし、SDGs未来都市計画と総合計画を一体的に推進するとともに、進捗管理を行っていく。

#### 2. 雲仙市観光戦略との連携

2020年6月に、10年後の2030年度を目標とする「雲仙市観光戦略～雲仙温泉編～」を策定しており、その目指すところはSDGsと共通する部分があることから、目標の達成に向けた連携を図っていく。また、今後市内の他地域においても、戦略策定を進める予定であり、そのなかにおいては、SDGsの視点を踏まえ、進めていく。

#### 3. 雲仙市環境基本計画

2015年度に策定した「雲仙市環境基本計画」において、低炭素な暮らしの推進や本市の地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入推進について、既に取り組むこととしているが、今後の見直しにあたり、SDGs未来都市計画を踏まえた反映を行い、強力に推進を図っていく。

### (2) 行政体内部の執行体制

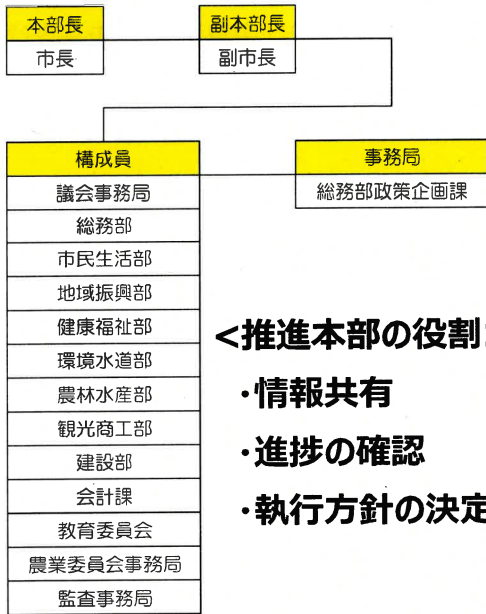
本市においてSDGs未来都市計画を推進するため、市長をトップとした部局横断的な組織「雲仙市SDGs推進本部」を4月に設置する予定であり、市長のリーダーシップの下、部局間を調整し、全庁を挙げて、協働できる体制を構築する。

分野を横断した事業が必要となるSDGsの取り組みの実施にあたっては、現在、部局横断によるプロジェクトに取り組んでいる既存の5つの雲仙市プロジェクトチームの体制が有効であることから、各プロジェクトチームは推進本部と情報共有・連携を図り、事業を推進していく。

また、外部の有識者や市民の方からの意見を聴取する体制として、既に設置している雲仙市総合計画等審議会を活用する。審議会には、市内を中心とした産官学金労言等の有識者が参加しており、本審議会においてSDGsについて議論を行うことは、本市のSDGsの推進及び総合計画との一体的な推進に非常に有益な機会となることが期待される。



雲仙市SDGs推進本部

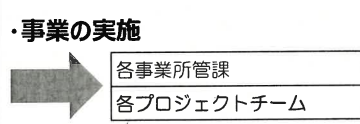


<推進本部の役割>

- ・情報共有
- ・進捗の確認
- ・執行方針の決定



- ・情報共有
- ・意見聴取



- ・事業の実施
- ・「循環」で創るエコタウンPT
- ・”人呼び込む”交流拡大PT
- ・「人財」で切り拓く協働のまちづくりPT
- ・情報通信技術等を活用した産業振興PT
- ・土地利用調整・検討PT



### (3)ステークホルダーとの連携

#### 1. 市内の団体など

計画している事業を実施するにあたっては、市役所の力だけでは困難であり、市民をはじめ、市内の事業所、農業団体、観光団体、高校の関係者に参加を呼び掛けていき、市が一体となった取り組みとなるよう連携を図っていく。

#### 2. 市外(県内)の団体など

近隣市、大学、報道関係、NPO、事業所等において、先行して市外で取り組まれているフードバンクの取り組みや子どもの遊び場等に関する知見を提供いただき、本市における取り組みを円滑かつ効果的に実施するとともに、ステークホルダーの本市への事業拡大にもつなげ、両者にとって有益となるよう連携を図る。

#### 3. 市外(国内、世界)の団体など

現在、総務省の地域活性化起業人制度を活用し、都市部の企業からの職員派遣を調整しているところであり、そのような人材から最新の技術等を用いたソリューションを企画いただく。都市部の企業側には開発したソリューションを実施する機会となるとともに、地域の実情を知る機会としていただき、今後の継続的な関係性の構築を図る。

### (4)自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

本市におけるSDGs 未来都市計画において、最終的には地域・民間が主体となった好循環を展開していくことを目標とする。

そのために、市民と産官学金団が連携して解決にあたるプラットフォーム「雲仙 SDGs プラットフォーム」を発足させ、令和3年度において、市で今後のSDGsに関する取り組みの方向性を整理するとともに、実現に向けた環境整備を行い、以下の取り組みにつなげる。

#### 1. ステークホルダーの幅広い募集(事業提案、資金等の投融資など)

本市においては、令和2年度から、AIを活用したオンデマンド型の新地域交通「チョイソコウンぜん」の実証実験を行っているところであり、その実施にあたっては、長崎トヨペット、あいおいニッセイ同和損保、九州電力、NTT 西日本のほか、地元の病院やスーパー等からスポンサーとして協力をいただいているところであり、このSDGsの取り組みについても、そのノウハウを活かして、民間企業や団体にステークホルダーとしての参加及び事業提案や資金等の投融資などを募集していく。

なお、近年の本市の取り組みに興味を示し、包括協定等の提案等が多く寄せられていることから、本事業の取り組みにより方向性を整理し、今後、ステークホルダーを幅広く募集する。

## 2. 「雲仙市 SDGs アクションプラン」の決定による市民・志民参加の呼びかけ

本市における SDGs の取り組みを個人レベルまで広めていくため、「雲仙市 SDGs アクションプラン」を決定し、市内外に広く呼びかけ、市内の住民に SDGs の取り組みを浸透させていくだけでなく、市外の方でも、この考えに賛同し、本市の取り組みに協働していただける方を「志民」として、参加の呼びかけを行っていく。

## 3. 各事業・取り組みの状況や成果などを順次、発信

ステークホルダーや市民・志民の方に興味を持って参加し続けていただくためには、取り組みについて透明性を保持し、オープンにし続けて、参加者の方に意識を持ち続けていただく必要がある。

そのため、各事業・取り組みの状況や成果などについては、順次、ホームページ等で発信していく。また、計画期間において、状況の変化が起きることを想定し、各事業・取り組みについて検証、見直しを行う PDCA サイクルを確立し、社会情勢等の変化へ随時対応していく。

## 2. 自治体 SDGs モデル事業（特に注力する先導的取組）

### 2.1 自治体 SDGs モデル事業での取組提案

#### (1) 課題・目標設定と取組の概要

##### (自治体 SDGs モデル事業名)

##### 雲仙市の資産を活用したヒト・モノ・マチの好循環術

##### (課題・目標設定)

ゴール 3 ターゲット 3.8



ゴール 8、ターゲット 8.3、8.9



ゴール 9、ターゲット 9.1



##### (課題と目標)

本市の基幹産業は第1次産業であるが、近年の農業従事者の高齢化や農家数・農業就業人口の減少に伴う経営耕地面積の減少等の課題に資するため、AIやICTを活用することで生産性の向上や省力化を推進することで経営の安定化を図り、所得の向上を目指す。

##### (課題・目標設定)

ゴール 7 ターゲット 7.1



ゴール 12、ターゲット 12.5



ゴール 17、ターゲット 17.17



##### (課題と目標)

本市では、森林バイオマス、畜糞、地熱などの多様な資源を有しており、大学との共同による調査を行っているが、エネルギー資源の更なる利活用を促進し、環境に対する負荷軽減を図る。

##### (課題・目標設定)

ゴール 1 ターゲット 1.3



ゴール 4、ターゲット 4.3、4.7



ゴール 11、ターゲット 11.2、11.7



##### (課題と目標)


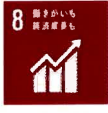
高齢化や高齢者世帯の増加、人口減少などに対応した住環境の整備や住民福祉の向上に資する取り組みを推進する必要がある。

**(取組概要)※150文字**

大学や民間企業等と連携し、知見やノウハウを積極的に活用し、AIやIT、ICT等などの先端技術を駆使することで、他にはない温泉をはじめとする自然や文化、歴史等の地域資源を最大限に活用した本市独自のまちづくりや産業振興等に取り組み、「雲仙市の資産を活用したヒト・モノ・マチの好循環術」を実現する。

**(2)三側面の取組**

**① 経済面の取組**

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 2, 4	指標：農業産出額	
	現在(2019年3月): 24,470 百万円/年	2023年: 30,000 百万円/年
 8, 9	指標：観光客延数	
	現在(2020年3月): 2,752 千人(延べ)/年	2023年: 2,936 千人(延べ)/年

**①-1 農業の労力支援と伝統農法の伝承**

○AI、ICT活用による農業技術の推進

農業のスマート化に向け、AIやICTなどのデジタル技術の導入を促進することにより、農作業の効率化及び労力の軽減を図ることで、農業者の負担をなくすとともに、デジタル化による農作物の管理能力の向上等に繋げることで市内農家の農業所得の向上を目指す。

○付加価値化支援による稼ぐ力の拡大

農業者による農作物の高付加価値化の取り組みを支援することにより、農業所得の向上に繋げるとともに、「農業＝儲かる産業」の確立を目指すことで、新規就農者の確保を行い、後継者不足の解消を図る。

○種採り農法ドキュメンタリー映像の整理

本市で長年、守り継がれている「種採り農業」に焦点をあてたドキュメンタリー映像の作成を行い、市内外・海外へ幅広く発信し、種採り農業についての認知度を高めるとともに、本市の関係人口の創出及び新たな種採り農業の就業者確保を図る。

**①-2 6日間滞在できる観光地づくり**

○観光資源を活用した観光地域づくり【再掲】

新たな観光まちづくり推進体制を設立し、観光産業におけるマーケティングとマネジメントに関する課題の分析に基づく経営戦略を構築する。また、地域資源と人財を効果的に活用した観光産業づくりを推進することで、地域経済の活性化に繋げる。

○ワーケーション等を活用した関係人口の拡大【再掲】

市内におけるワーケーションの受入態勢の整備を行うとともに、多くの企業・個人との連携体制を構築し、様々な媒体を活用したプロモーション等を通じて、ワーケーションの定着・拡大を図る。また、ワーケーションを活用し、市外の企業や大学、起業家など異業種・異分野の技術やアイデアを組み合わせたオープンイノベーションによる地域課題の解決や関係人口の増加を図る。

○主要道路の早期実現と新規採択

市民の生活の利便性及び交流人口の増加を図るため、地域高規格道路「島原道路」の整備促進及び未整備区間の早期事業化を目指す。また、関係機関と連携し、市内の主要な幹線道路や生活道路の整備・維持管理を進める。





○自然の中で育む健康(温泉療法の調査・研究を含む)

本市の自然を活かした健康の維持・増進を行うための施策について、他自治体の事例も踏まえながら、関係機関と連携して調査・研究を行う。

(事業費)

3年間(2021～2023年)総額:589,604千円

② 社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 2	指標:自然を舞台とした遊び場の整備	
	現在(2021年3月): 0箇所 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>2023年:</td> <td>1箇所</td> </tr> </table>	2023年:
2023年:	1箇所	
 1, 3	指標:「うんぜんフードバンク」の設置数	
	現在(2021年3月): 0箇所 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>2023年:</td> <td>1箇所</td> </tr> </table>	2023年:
2023年:	1箇所	
 2, 1		
 12, 3		

①-1 安心した子育て環境の整備

○自然を舞台にした「子どもの遊び場」の整備【再掲】

子どもたちが、身近に存在する自然に触れながら、安心して遊ぶことができる「子どもの遊び場」を整備する。本市が持つ自然を舞台とすることで、保護者にとっては、子どもたちを自然の中で安心して遊ばせることができ、子どもたちは、自然や生き物に触れながら、生物の多様性や自然環境を守ることの大切について学ぶことができる環境整備を行う。

#### ○次世代寺子屋「STEAM雲仙」の創設【再掲】

未来を担う、子どもたちの人材育成の場として、次世代寺子屋「STEAM雲仙」を創設し、雲仙プラットフォームに参画する大学や民間企業と連携して、子どもたちへプログラミング等を教えることにより、子どもたちが、将来、必要な知識や技術を楽しみながら習得できる環境を整備する。

※STEAM…サイエンス(科学)、テクノロジー(技術)、エンジニアリング(工学)、アート(芸術・教養)、マス(数学)の5つの知識を重視した人材育成の理念。

#### ○充実した「子育て応援パッケージ」の再構築

本市において、令和元年度から実施している、出会いから子育てまでを総合的に支援する「雲仙市 新・子育て応援パッケージ」について、定期的な効果検証を行うとともに、常に変化する社会情勢等に対応できるよう、支援策等の充実を図る。

#### ○ICTを活用した教育環境の充実

ICT等の活用による教育環境の整備・充実を行い、子どもたちが情報を適切に活用できる能力を高めるとともに、市内の全ての子どもが、タブレットなどの情報機器端末を使用し、学習することができるようにすることで、教育格差の是正を図る。

### ①-2 安心な暮らしの構築

#### ○ITシステムを活用した新地域交通の確立【再掲】

令和2年10月から、長崎トヨペット株式会社、地元タクシー事業者、市社会福祉協議会、自治会等で構成する雲仙市新地域交通実証実験協議会において、実証実験を開始している、ITシステムを活用した乗り合い送迎サービス「チョイソコうぜん」について、現在の運行エリアを、4地域から市内全域(7地域)へ拡大し、本格運行を行うことで、市民の交通利便性の向上及び二酸化炭素排出の低減による環境保全の推進を図る。

※チョイソコうぜん…現在の実証実験期間:令和2年10月～令和4年3月

現在の運行エリア:雲仙市国見町、瑞穂町、吾妻町、愛野町

#### ○農福連携による多様性のある社会の構築

農業分野と福祉分野の連携(農福連携)を推進することで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出し、誰もが社会に参画する、多様性のある社会を構築するとともに、後継者不足が深刻な農業の新たな働き手の確保へ繋げる。

○共に助け合う「うんぜんフードバンク」の構築【再掲】

市内のスーパーや飲食店、旅館、ホテル等と連携し、各事業所において発生する食品ロスの状況を把握・管理することができるアプリを開発する。また、本アプリを通して把握した、食品ロスの食材を「うんぜんフードバンク」で保管し、食材を必要とする貧困世帯や一人親世帯等へ提供する。





○高齢者(独居老人)見守り支援の整備

市内に住む、高齢者や独居老人の暮らしの安全を守るため、離れて住む家族等が、いつでも高齢者の安否を確認することができるアプリを開発し、高齢者の見守り支援の強化を図る。

(事業費)

3年間(2021～2023年)総額:852,615千円

③ 環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12, 5	指標:ごみの再資源化率	
	現在(2020年3月): 14.2%	2023年: 18.1%
 11, 5	指標:自主防災組織地区数	
	現在(2021年3月): 92地区	2023年: 242地区(100%)
 13, 1		
 17, 17		

①-1 環境に優しいまちづくり

○再生可能エネルギーの推進と支援【再掲】

畜産ふん尿を活用した湿潤系バイオマス発電及び未利用間伐材等を活用した木質系バイオマスボイラーの公共施設への導入など、本市の資源を活用した再生可能エネルギーの実用化に向け、関係機関と協力しながら取り組みを推進する。

○ごみの減量化(プラスチック利用低減)の取り組み【再掲】

広報紙や出前講座等によりごみの出し方・分け方の周知を行い、ごみ減量化に取り組む。また、市内の公共施設に設置している小型電子機器回収ボックスによる使用済み小型電子機器類の回収やストックハウスによる古紙類の回収に取り組むことで



サイクルの推進を図る。

○見える「食品ロス」の取り組み(フードバンクと連携)【再掲】

市内のスーパーや飲食店、旅館、ホテル等と連携し、各事業所において発生する食品ロスの状況を把握・管理することができるアプリを開発し、フードバンクと連携させ、貧困世帯や一人親世帯へ食材を提供することで、食品ロスを有効活用する仕組みを構築する。

①-2 災害に強いまちづくり

○ICTを活用した防災情報の発信

災害発生時に、市民の生命と財産を守るため、市民に対して迅速に情報提供ができるよう、避難所への避難者数の“見える化”など、ICTを活用した防災情報発信の強化を行う。

○自主防災組織の環境整備【再掲】

自主防災組織の設立、育成、強化に向けた支援を行うとともに、自主防災組織が行う防災訓練等を推進し、市民の防災意識の向上に努める。

○民間アイデアによる資産(公共施設等)の活用

市内公共施設等について、民間のアイデアや技術を活用して運営することにより、行政の考えのみにとらわれない、よりよいまちづくりの推進に繋げる。

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額:199,022千円

(3)三側面をつなぐ統合的取組

(3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

(統合的取組の事業名)

“CHIGAIーちがいでー”を紡ぐ「雲仙プラットフォーム創出事業」

(取組概要)※150文字

本市の素材を磨き、活かし、繋げることによるSDGsの推進を図るため、市民や関係団体等で構成するプラットフォームを構築し、情報共有及びアクションプランを策定する。また、関係機関と連携しながら、SDGsに関する人材育成や、機運の醸成、ICTやAIによる新たな日常の創出に向けた取り組みを行う。

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額:46,642千円

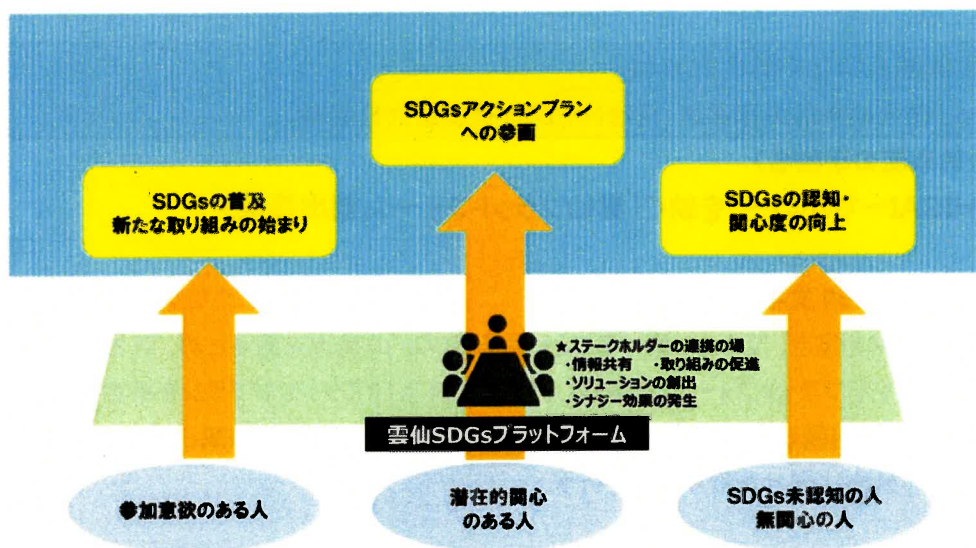
**(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)**

三側面をつなぐ統合的な取り組みとして、本市が持つ様々な地域資源(異なるもの同士「ちがひ(違い)」)を紡ぎながら、経済面、社会面、環境面における相乗効果を生み出すための基盤として、市民やステークホルダーで構成する「雲仙 SDGs プラットフォーム」を構築する。このプラットフォームにおいて、各分野における SDGs の取り組み等についての情報共有を図りながら、本市が取り組む SDGs についての方向性を示すアクションプランを策定し、各種取り組みを実行していく。

プラットフォーム構築以外の取り組みとして、SDGs を自ら実行し、市民等へ伝えていくマイスターの育成や、映像を活用した機運の効果的な醸成、ICTやAIによる新たな日常の創出、素材を循環する環境の整備などの取り組みは、経済面、社会面、環境面の各側面を高めるとともに、三側面の効果を繋ぎ合わせ、事業実施前よりも高次元での好循環を生み出すきっかけとなるものである。

また、経済面においては、本市の基幹産業である農業及び観光について、環境に配慮した持続可能な産業としての発展、社会面においては、ITシステムを活用した乗り合い送迎サービスの拡大による交通機関の二酸化炭素の低減、環境面においては、本市が持つ多様な地域資源を活用した再生可能エネルギーの実用化に向けた取り組みの推進など、各側面における取り組みにおいて、カーボンニュートラル(脱炭素社会)の実現も併せて取り組んでいくものである。

これらの取り組みにより、本市の資産を活用した、ヒト・モノ・マチの好循環を生み出し、三側面の相乗効果による「マチの賑わい」、「モノの磨き」、「ヒトの誇り」を実現し、本市における SDGs の確立を図っていく。



<b>(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)</b>	
<b>(3-2-1) 経済⇔環境</b>	
<b>(経済→環境)</b>	
<b>KPI (環境面における相乗効果等)</b>	
指標: 1日1人あたりのごみ排出量	
現在(2020年3月): 983g/人・日	2023年: 869g/人・日
<p>経済面において、持続可能な産業を実現するため、スマート農業や有機農業の推進、環境に配慮した観光まちづくり等を進めることによって、農業就業者や事業者等の環境保全に対する意識が醸成される。環境面においては、環境保全に対する意識の向上により、なるべく多くのごみを排出しないという行動に繋がりと、ごみの排出量が低減し、自然環境が保たれるという相乗効果が見込まれる。</p>	
<b>(環境→経済)</b>	
<b>KPI (経済面における相乗効果等)</b>	
指標: 観光客延数	
現在(2020年3月): 2,752千人	2023年: 2,936千人
<p>環境面において、環境に優しいまちづくり、災害に強いまちづくりを推進することによって、環境に配慮した持続的で魅力のある農業を行うまち、いつ訪れても清潔感があり、災害が発生しても安心して滞在できる観光地というイメージアップに繋がる。経済面においては、環境に優しい農業や観光に魅力を感じる人や興味を持つ人が本市へ訪れることによって、観光客の増加や域内経済の活性化に繋がるという相乗効果が見込まれる。</p>	
<b>(3-2-2) 経済⇔社会</b>	
<b>(経済→社会)</b>	
<b>KPI (社会面における相乗効果等)</b>	
指標: 雲仙市に住み続けたい市民の割合	
現在(2021年3月): 77.9%	2023年: 78.37%
<p>経済面において、「雲仙 SDGs プラットフォーム」が基軸となって実施する「観光編」講習会の開催や地域通貨(ポイント)「湯せんPay」アプリの開発、SDGs 普及啓発のための動</p>	

画の配信等により、市のブランド力が向上され、それに伴い、産業や観光振興に繋がることで所得の向上が図られる。社会面においては、所得の向上により、安定した生活を送れるようになることで、雲仙市に住み続けたい市民の割合が増加するという相乗効果が見込まれる。

**(社会→経済)**

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標:卸売・小売事業所平均年間販売額	
現在(2017年3月): 84,907千円 (H28 経済センサス活動調査)	2023年: 84,907千円 (R3 経済センサス活動調査)

社会面において、ITを活用した新地域交通の確立により、普段、外出することが困難な高齢者や障害者等の市民が、いつでも気軽に外出できるようになり、買い物や通院、趣味やスポーツのための外出など、日常生活や生きがいづくりの支援に繋がる。経済面においては、市民の外出機会が増えることによって、市内店舗等の利用機会が増え、域内の経済が活性化するという相乗効果が見込まれる。

**(3-2-3)社会⇄環境**

**(社会→環境)**

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標:1日1人あたりのごみ排出量	
現在(2020年3月): 983g/人・日	2023年: 869g/人・日

社会面において、幼いころから自然の中で遊ぶことにより、自然の大切さを学ぶことができ、また、SDGs 普及のための各種啓発により、子どもから大人までの環境保全に対する意識が向上する。併せて、高齢者や障害者など、誰でも社会に参画できる多様性のある社会や、食品ロスとフードバンクの連携した取り組み等により、互いを認め、助け合う大切さについての意識が生まれる。環境面においては、自分たちが住むまちを守るという意識の向上により、一人ひとりの環境保全に関する行動の実行や自主防災組織等、コミュニティ形成の相乗効果が見込まれる。

(環境→社会)

**KPI (社会面における相乗効果等)**

指標: 社会動態(転入者から転出者を引いた数)

現在(2020年3月):

2023年:

-265人(2015~2019年平均)

-236人(2018~2022年平均)

環境面において、再生可能エネルギーの推進、ごみの減量化等に取り組むことにより、環境に配慮した持続可能なまちになるとともに、ICTを活用した防災情報の発信や自主防災組織が増加することによって、災害に強い環境が整備され、環境にやさしく、誰もが住みやすいまちが形成される。社会面においては、本市が住みやすいまちとなることで、市外へ転出する人が減少し、本市のまちづくりに魅力を感じる人が本市へ転入することで、これまでマイナスの状態であった社会動態が改善するという相乗効果が見込まれる。

**(4) 多様なステークホルダーとの連携**

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
市外民間企業	高齢者見守り、食品管理等を行うためのアプリ開発、デジタル技術全般に関する助言を行う。
市外民間企業	専門的な立場から、事業の取り組み全般や外部資金の獲得に関して助言を行う。
市外団体	フードバンクの創設に協働して取り組む。
市外民間企業	ドローン技術の農業への活用に関する技術等の講習を行う。
市外民間企業	SDGs 普及啓発のためのコンテンツ作成に関する協力を行う。
市外民間企業	取り組みに関する情報発信
市内事業所	農業に関する専門的な知見から SDGs 普及啓発のためのコンテンツ作成を行う。
市内事業所	観光に関する専門的な知見から SDGs 普及啓発のためのコンテンツ作成を行う。
市内経済団体	SDGs の普及啓発に関する取組について協働する。
市内農業団体	SDGs の普及啓発に関する取組について協働する。
市内観光団体	SDGs の普及啓発に関する取組について協働する。
市民	日常生活における SDGs を意識した行動と発信
市内高校	生徒への SDGs の普及啓発に関する協力を行う。

[Redacted content]

**(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施**

**(事業スキーム)**

SDGs の取り組みを連携して進める場として、「雲仙 SDGs プラットフォーム」を構築し、行政、大学、企業のみならず、農業者や漁業者、市民など、幅広いステークホルダーで連携を行い、取り組み全体の促進、情報共有、ソリューションの創出やシナジー効果を生み出す契機とする。

本事業では、現状の各側面において、気運の醸成や牽引する人材の育成、デジタル技術を用いた新たな日常の創出に取り組み、SDGs の考え方を踏まえた高い意識や視点に基づき、現状よりも高い次元での好循環を実現することを狙いとする。

○本市においては、まだ SDGs の考え方が広く浸透しているとは言い難い状況にあり、取り組みを進めるにあたって、まずは広く普及啓発を図っていく必要がある。そのための手法として、講演会やフォーラム等もあるが、コロナ禍等の社会情勢の変化においても継続して幅広い機会での啓発ができるよう、動画や映像作品を制作し、視聴してもらうという方法で進めていく。本市には、温泉資源や種採り野菜などの農業等、昔ながらでありながら、「持続可能」という視点では先進的とも言える素材があり、それらを活用しながら機運の醸成を図っていく。

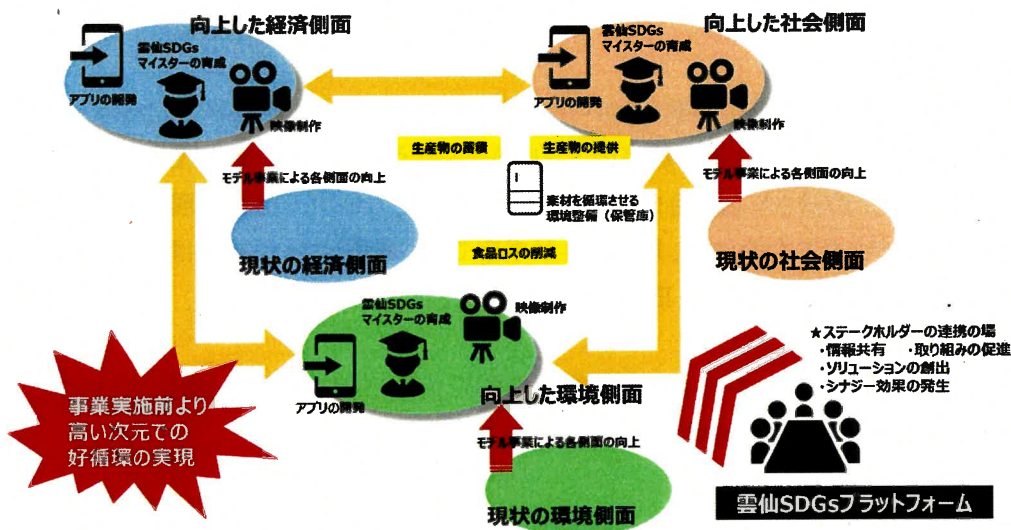
○SDGs に関する講習会を行い、「雲仙市 SDGs マイスター」を育成する。マイスターは講習会を経て、「持続可能」や「誰一人として取り残さない」という SDGs の考え方を学び、それぞれの分野で地域の SDGs を牽引する人材となっていくとともに、三側面の循環を進めるためのキーマンとなっていくことを期待している。

○全国においても社会問題となっているが、本市においても独り暮らしや結果的に孤独死

となってしまう高齢者の方、また、経済状況が食生活に影響する可能性があるひとり親家庭とその子どもたち等が存在する。このような現状を、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念に基づき、解決していくために、高齢者の見守りや食品管理(食品ロスからフードバンク)等を行うことができるアプリの開発を行い、ICT、IoTを活用した新たな日常の創出を図る。

○このような各取り組みを循環させる先駆的な取り組みとして、フードバンクの創設を行う。本市は、農業が盛んな地域であるが、売れ残った作物が廃棄され、フードロスが発生している。そのような廃棄される作物等の情報をアプリで集約し、必要としているひとり親家庭やその子どもたちに提供できる仕組みを作ることで、生産物の蓄積、食品ロスの削減、児童の飢餓の解消の三側面の循環を図る。

### <事業実施イメージ>



### (将来的な自走に向けた取組)

本市は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と地方創生に関する包括連携協定を締結し、それぞれの資源を有効に活用した協働による活動を推進することとしており、今後も他の企業との包括連携協定の締結等の協働体制を積極的に進めていきたいと考えているところである。

また、市内で行われているオンデマンド型の地域交通「チョイソコうぜん」の実証実験には、地域の住民の方や事業者、企業に事業の取り組み自体や資金面での協力をいただいている。

このように、本市にはこれまで民間企業とともに取り組んできた実績があり、その方向性は今後も推進していきたいと考えている。その取り組みの中で、民間の資源や資金面の協力を得ながら、将来的な自走を目指していきたいと考えている。

## (6)自治体 SDGs モデル事業の普及展開性

### (他の地域への普及展開性)

#### 1. 地域の現状を踏まえた他地域への普及展開性

令和2年度までの自治体 SDGs モデル事業の選定において、長崎県で採択を受けているのは壱岐市と対馬市であるが、いずれも離島であり、県内本土地区での選定はまだない。このような状況にあることから、今回の本市の提案は先駆的な取り組みであり、選定を受けた場合、近隣の自治体等の県内他地域が受ける影響は大きく、各自治体は他の自治体の取り組みを注視していることから、続く自治体も出てくることが想定される。また、本市としても事業の取り組みは積極的にプレスリリースやホームページ等での情報発信を行っていき、新聞やメディアで取り上げてもらうことを狙っていきたいと考えており、これは本市の中における SDGs の取り組みの他地域への普及展開に寄与していくものである。

#### 2. 事業の普及展開性

本市が提案しているモデル事業においては、講習会の実施や映像制作、アクションプランの作成、高齢者見守り、食品管理等のアプリ開発を行うこととしている。1で前述したように、本市の事業が採択された場合は、近隣自治体等の他の地域への普及展開に寄与するものと考えますが、そのためには、取り組みが本市でしか通用しないものではなく、一定の汎用性を持つ必要がある。今回、提案を行っている各取り組みには、

##### ●講習会

雲仙市 SDGs マイスターを育成する講習会であり、内容や実施結果を公開していくことで、まだ取り組んでいない地域の先行事例としてもらう

##### ●映像制作

SDGs の機運を醸成するための映像を制作し、本市の中に限らず、他の地域へも発信する

##### ●アクションプラン

本市における SDGs の取り組みを体系的に整理し、他地域へも紹介を行っていく

##### ●アプリ開発

開発するアプリの実証実験を行い、有用性が検証された場合、開発企業との調整が必要であるが、他の地域における活用の可能性がある

という点があり、各地域への普及展開性があると考えている。



## (7) 資金スキーム

### (総事業費)

3年間(2021～2023年)総額: 1,681,241 千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつな ぐ統合的取組	計
2021年度	225,638	333,769	66,968	36,642	663,017
2022年度	185,633	263,795	66,027	5,000	520,455
2023年度	178,333	255,051	66,027	5,000	504,411
計	589,604	852,615	199,022	46,642	1,687,883

### (活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定 年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
国立公園における地域産品 等の提供促進事業補助金 (環境省)	2021	7,216	経済面の取組の「付加価値化支 援による稼ぐ力の拡大」に係る部 分について、活用予定。

### (民間投資等)

#### 《現在の取り組みの例》

新地域交通実証実験(R2.10～R4.3)

全体事業費(予算額) 25,632千円

内訳	民間助成額(トヨタ)	17,282千円
	市補助金	4,175千円
	運賃収入・スポンサー料	4,175千円

※R3.2現在のスポンサー料6,330千円であり、余剰金は運行す  
る地域タクシー事業者へ分配(予定)。

(8)スケジュール

	取組名	2021 年度	2022 年度	2023 年度
統合	①雲仙プラットフォームの構築	プラットフォーム設立準備 (~6月)	アクションプラン策定 (~12月)	アクションプランに基づく取り組みの展開
	②雲仙 SDGs マスターの育成	SDGs 講習会の検討 (~6月)	SDGs 講習会の実施・マスターの育成	
	③映像を活用した機運の醸成	内容の企画・検討 (~5月)	映像制作 (~12月)	映像の発信(市内外)
	④ICTとAIによる新たな日常の創出	実証実験の内容検討・関係企業との調整 (~12月)		実証実験(最低1年実施)、本格運用可能なものから、順次本格運用スタート
	⑤素材を循環する環境の整備	環境の整備 (~12月)		順次展開
経済	①AI、ICT活用による農業技術の推進	順次展開		
	②付加価値化支援による稼ぐ力の拡大	順次展開		
	③種採り農法ドキュメンタリー映像の整理	映像制作支援(補助)		映像の活用(市内外への発信)
	④観光資源を活用した観光地域づくり	順次展開		

	<p>⑤ワーケーション等を活用した関係人口の拡大</p> <p>⑥主要道路の早期実現と新規採択</p> <p>⑦自然の中で育む健康(温泉療法の調査・研究を含む)</p>	<p>順次展開</p> <p>順次展開</p> <p>活用する資源の調査・関係機関との調整</p>	<p>調査・研究</p>	
<p>社会</p>	<p>①自然を舞台にした「子どもの遊び場」の整備</p> <p>②次世代寺子屋「STEAM雲仙」の創設</p> <p>③充実した「子育て応援パッケージ」の再構築</p> <p>④ICTを活用した教育環境の充実</p> <p>⑤ITシステムを活用した新地域交通の確立</p> <p>⑥農福連携による多様性のある社会の構築</p>	<p>構想の検討・関係機関との調整</p> <p>構想の検討・関係機関との調整</p> <p>現行の事業実施(～10月) → 事業の見直し・再構築</p> <p>順次展開</p> <p>現行の運行エリアでの実施</p> <p>順次展開</p>	<p>設計・整備</p> <p>実証実験</p> <p>事業実施と見直し・再構築(2021年度と同様のスケジュール)</p> <p>運行エリアの拡張</p>	<p>本格運用</p>

	<p>⑦共に助け合う「うんぜんフードバンク」の構築</p> <p>⑧高齢者(独居老人)見守り支援の整備</p>	<p>フードバンク設置の準備(関係機関との調整)</p> <p>関係機関との調整 (~12月)</p>	<p>順次展開</p> <p>順次展開できるものから展開</p>	
環境	<p>①再生可能エネルギーの推進と支援</p> <p>②ごみの減量の取り組み</p> <p>③見える「食品ロス」の取り組み</p> <p>④ICTを活用した防災情報の発信</p> <p>⑤自主防災組織の環境整備</p> <p>⑥民間アイデアによる資産(公共施設等)の活用</p>	<p>順次展開(民間の取り組みの推進・支援等)</p> <p>関係機関との調整 (~12月)</p> <p>体制の構築 (~12月)</p>	<p>順次展開</p> <p>順次展開できるものから展開</p> <p>順次展開できるものから展開</p>	

# 2021年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル: 素材を磨き、活かし、つながる“ほっとするby雲仙”

提案者名: 長崎県雲仙市

全体計画の概要: SDGs=「持続可能な開発目標」は、誰もが取り組める、また、誰もが取り組まなければならない事であるため、本市住民の身近な問題を、本市の潜在的資源を活用し、また、市民と産官学金団が連携して解決にあたるプラットフォーム「雲仙SDGsプラットフォーム」を発足させる。また、本プラットフォームを基軸として各々が可能な取り組みを市全域へ横展開し、好循環による市民と来訪者のQOL向上を図る。

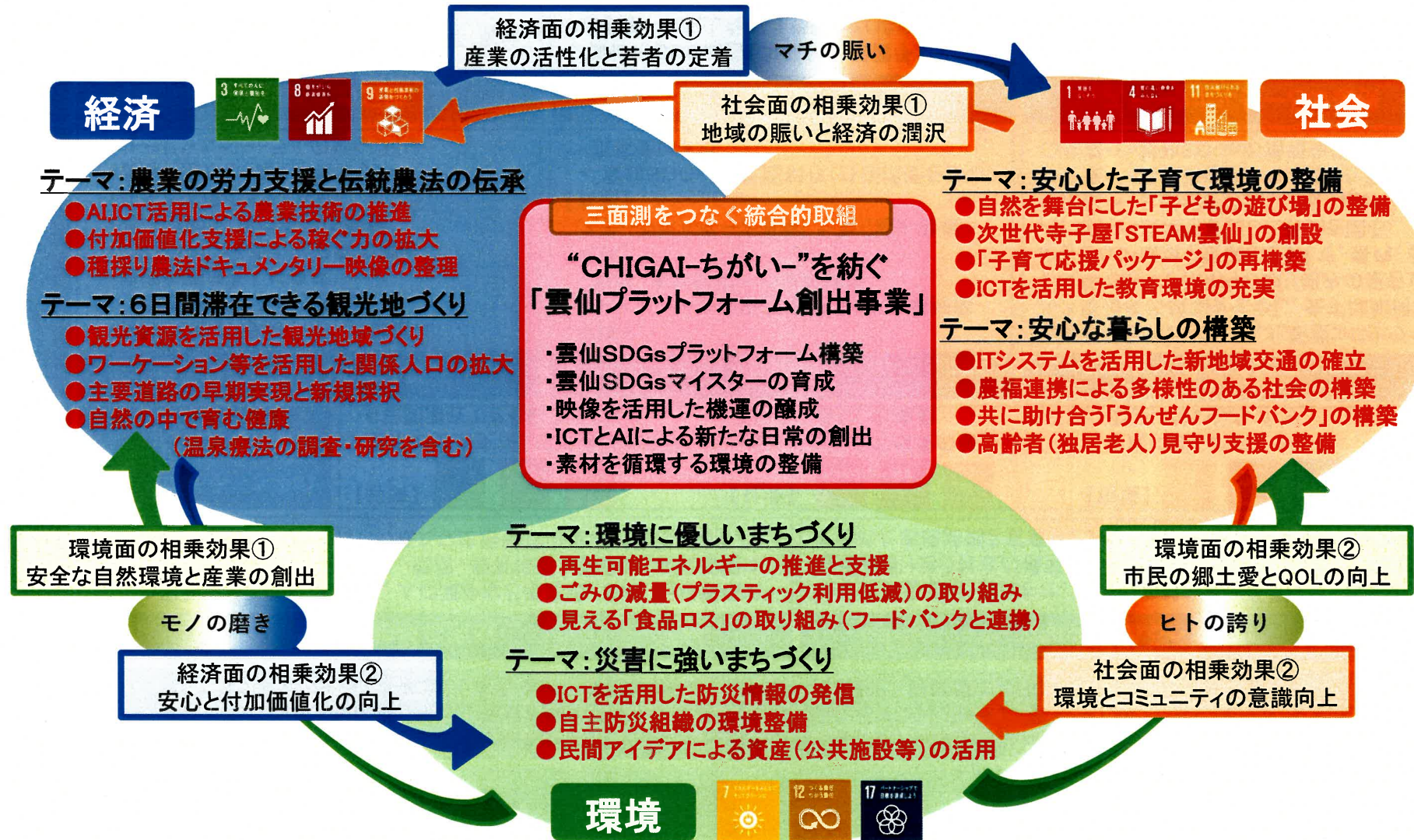
1. 将来ビジョン	<b>地域の実態</b>	<b>2030年のあるべき姿</b>		
	本市の課題である少子・高齢化、人口減少などの克服、また、地球規模で対処しなければならない食品ロス、飢餓、教育格差、温暖化に加え新型コロナウイルス感染症などをはじめ新たな生活様式の実現が急務である。	地域資源を活用・循環させ、本市の基幹産業である農業、観光の活性化と助け合う社会の構築による市民満足度の向上。また、観光客を含めた志民活動を定着させ、ヒト・モノ・マチの好循環社会を構築。		
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	<b>2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット</b>	<b>【経済】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の労力支援と伝統農法の伝承</li> <li>・6日間滞在できる観光地づくり</li> </ul>	<b>【社会】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心した子育て環境の整備</li> <li>・安心な暮らしの構築</li> </ul>	<b>【環境】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に優しいまちづくり</li> <li>・災害に強いまちづくり</li> </ul>
	<b>自治体SDGsに資する取組</b>	<b>情報発信</b>	<b>普及展開性</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲仙SDGsプラットフォーム構築 (アクションプランの作成)</li> <li>・機運の醸成と人材育成</li> <li>・ICTとAIによる新たな日常の創出</li> <li>・遊びと学び、育つ環境の整備</li> <li>・共生と循環のまちづくり</li> <li>・資源を活かし、磨く産業づくり</li> <li>・カーボンニュートラルのまちづくり</li> </ul>	<b>【市内】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットや動画を活用したHP,SNS発信</li> <li>・市民、事業者等への出前講座</li> </ul> <b>【市外】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステークホルダーと連携した取り組み発信</li> </ul> <b>【共通】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「雲仙SDGs」の動画制作(外国語版を含む)</li> <li>・視察受け入れ</li> </ul>	昨年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の教訓を生かし、先ずは如何なる状態であっても市内の取り組みの足を止めさせない環境を整備したうえで、県内、国内、海外へ展開を意識した行動を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民…三面測を意識した取り組み</li> <li>○企業…雲仙市をフィールドとした取組み</li> <li>○共通…雲仙SDGsの情報発信</li> </ul>		
3. 推進体制	<b>各種計画への反映</b>	<b>行政体内部の執行体制</b>		<b>ステークホルダーとの連携</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2次雲仙市総合計画: 後期基本計画(雲仙市まち・ひと・しごと創成総合戦略を内包: 2022年度~2026年度)に記載。</li> <li>○雲仙市観光戦略との連携(目標: 2030年度)</li> <li>○雲仙市環境基本計画(改定時に反映予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雲仙市SDGs推進本部(4月設置予定) 市長をトップとした組織横断的な組織</li> <li>○雲仙市プロジェクトチーム(5チーム) 部局横断によるプロジェクトの取り組み</li> <li>○雲仙市総合計画等審議会(設置済み) 産官学金労言連携によりSDGsを議論</li> </ul>		<b>【市内の団体など】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民、事業所、農業団体、観光団体、高校</li> </ul> <b>【市外(県内)の団体など】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣市、大学、報道関係、NPO、事業所等</li> </ul> <b>【市外(国内、世界の団体など)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業(地域活性化企業人協定を含む。)</li> </ul>
<b>自律的好循環の形成に向けた制度の構築等</b>	<b>【目標: 地域・民間主体の好循環術の展開】…市: 取り組みの方向性整理・環境整備(令和3年度)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ステークホルダーの幅広い募集(事業提案、資金等の投融資など)</li> <li>2. 「雲仙市SDGs」アクションプランの決定による市民・志民参加の呼びかけ</li> <li>3. 各事業・取り組みの状況や成果などを順次、発信 ※PDCAサイクルを確立し、社会情勢等の変化へも対応</li> </ol>			

# 2021年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名: 雲仙市の資産を活用したヒト・モノ・マチの好循環術

提案者名: 長崎県雲仙市

取組内容の概要: 昨年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の教訓を生かし、まずは如何なる状態であっても市内の取り組みの足を止めさせない環境整備が必須であることから、本モデル事業において域内におけるSDGs普及啓発に加え、市民による持続可能な取り組みを見極める実証実験を核として取り組み、雲仙市SDGsの基盤を確立する。



※「テーマ」とは、記載要領にある「提案都市の課題」を市民等と取り組みを強固にするための「テーマ」(スローガン)として表しています。